



王桜中だより

第3号 令和6年6月

北区立王子桜中学校
校長 吉原 健

[承認] の声かけ

校長 吉原 健

王子桜中では今年度の学校経営の重点として〈組織的な特別支援教育の支援体制〉の充実に取り組んでいます。これは障害の有無ではなく、様々な子どものニーズに多様な学びの場と支援で応じるといふ [インクルーシブ教育] の考え方を基盤としています。

そのため、授業づくりや学級づくりでも、〈教育のユニバーサルデザイン〉の視点を生かすことを工夫して実践しています。つまり発達障害を含む特別な配慮や支援を必要とする子どもには「ないと困る」支援であり、どの子どもにも「あると便利で役に立つ支援」を増やしていくのです。先日校内研修でご指導いただいた立正大学教授の鹿嶋真弓先生からこんなお話をいただきました。それは、「ほめるのではなく [承認] の声かけが大切」ということです。

鹿嶋先生のお話によれば、「ほめる」「賞を与える」といった [結果承認] や、「事実を伝える」「励ます」「感謝を伝える」といふ [行為承認] も大事ながら、子どもたちにとってみれば、常に「ほめられる存在」としての自分や「励まされる存在」としての自分にならなければならない…というプレッシャーにもつながる懸念があるといふのです。これは「親や教師の期待に応えなければ、自分は認めてもらえない」といふ背伸びした自己形成です。

これに対して [存在承認] という言葉があります。これは相手の存在をそのまま丸ごと認めている行為や言葉です。親が我が子を無条件に愛する心情、年老いた自分の親を子どもが心から敬う心情などがこれにあたるといふ思います。




親や教師ができる [承認] のヒントとして、たとえば

- 子どもができていることに注目する
- 子どもの小さなプラスの変化を見逃さない
- 承認の声かけを意識することで、子どもとの信頼関係をつくる
- お互いのよさを見つける集団の雰囲気を広げること…などが考えられます。



「できていることに注目する」ことなどは、親や教師が意外と苦手な側面ではないでしょうか。一方で「ほめる」こと自体が目的化してしまうと、子どもの自発的な成長の芽を摘み取ってしまう危惧もあります。鹿嶋先生がお話しされたように、私たちの承認の声かけが子どもにとってのモデルとなり、温かい学級全体の雰囲気を決定付けると信じて、これからの授業や学級づくりに取り組んでいきたいといふ思います。

今月の行事予定

日	曜日	6月行事予定	日	曜日	6月行事予定
2	日	3年修学旅行1日目 	14	金	定期考査I (理・英・美) 
3	月	3年修学旅行2日目	17	月	定期考査I (社・数・音)
4	火	3年修学旅行3日目	18	火	定期考査I (国・技家) 採点日(午後)
5	水	3年振替休業日	19	水	採点日(午後) 巡回保護者研修会
6	木	避難訓練 定期考査1週間前	20	木	答案返却開始
7	金	教育実習終	21	金	セーフティ教室
10	月	全校朝礼 	22	土	土曜授業 第1回進路説明会 10時～
11	火	定時退勤日	24	月	生徒会朝礼
12	水	学校ファミリーの日 15時まで家庭学習	26	水	職員会議(昼清掃)

新しい学級づくりが進んでいます！

お待たせしました。体育祭を終え、クラスの絆も深まった1年生の学級目標を紹介します！

1年1組（蓮沼学級）	“自立” ・実力を発揮する ・頑張る ・時には頼る ・後先を考えて行動する ・失敗から学ぶ ・失敗を恐れない
1年2組（伊藤学級）	2組魂！「はい！よろこんで！」 全力で助け合いみんなですずか～に魂を完全にもやす
1年3組（碁石学級）	きらきら だのしむ えがお だすけあい ぜんりよく
1年4組（村井学級）	むずかしいことにも目を向ける ②くな道を選ぶな ④かなることにも挑戦 ③まったときは助け合う ⑤みのように広い心 ⑥うの鼻のように気は長く ⑦れしいことは皆ではしゃぐ
1年7組（小林智学級）	勉強が思わずしたくなる暮らしやすいクラス みんなで仲良くにぎやかにしたい

王桜生全員が輝いた体育祭！



5月25日(土)に**第20回体育祭**が行われました。当日は朝から晴天に恵まれ、開校20年目となる記念の体育祭の舞台は整いました…。

[開会式]が始まり、3年のTさんとFさんの力強い**選手宣誓**を聞いた時「今日の体育祭は成功する」と思いました。王桜生全員の気持ちを鼓舞するような彼らの選手宣誓は、放課後繰り返し行っていた練習の成果の賜物です。開会式に続いて行われた最初のプログラムは**[準備体操]**。〈演技〉として行うこのラジオ体操を本校では力を

入れて取り組んできました。この日の本番でも生徒一人一人が気持ちを入れた演技を披露して、体育祭の成功への思いは〈確信〉に変わりました…。

その後行われた各学年の種目では、途中で力を抜いたりふざけたりする生徒もなく、運動が得意な子も苦手な子もクラスのために最後まで全力を尽くす姿が、私の目にすがすがしく映りました！もう一つ私が感動したのはルールに基づいた公正なジャッジです。競技後の「審議」により残念ながら順位を落としたクラスもありましたが、担当教員のルール違反の丁寧な説明に対して、生徒たちはきちんと受け入れ不満を言う生徒はいませんでした。



そして、午前最後のプログラム**[王桜演舞]**。広い校庭をシーンと静寂が包み、かけ声と共に3年生の入場行進が力強く始まった瞬間から、不覚にも私はすでにウルウルきていました。ダンス委員長のMさんも、3年生全員の思いを乗せて、素晴らしいあいさつを観衆に届けてくれました。学年練習で何度もダメ出しをされ、先生方に注意されている姿を見ていただけに、当日の一人一人の真剣な表情と渾身の力を込めたダンスは皆さんの心にしっかり届いたと思います。不安を抱えながらも、

新しいチャレンジを勇気をもってやり切った3年生をリスペクトします！

係生徒も自分の仕事を責任をもってやり切り、すべての王桜生が〈自分事〉として、この体育祭に参加してくれたことは何よりうれしいことでした。クラスカラーの衣装に身を包んだ担任や副担任の先生方の温かい応援も彼らの心にしっかり届いたはずです。

そして**[閉会式]**。肩を組んで〈校歌〉を歌う彼らのうれしそうな笑顔とやり切った表情を見ることができて本当に幸せでした。今回の第20回体育祭が、1,2年生にとって新たな目標になったことを心からうれしく思います。すべての生徒の皆さん、感動をありがとうございました！